

農村維持へ若手結集

「協同」の精神に立つJAグループ山形は、農家組合員の「共益」だけでなく、地域社会に貢献する「公益」の視点も忘れない。地域と農業は支え合う関係にあるからだ。農業は環境を守り、洪水を防ぎ、水資源をかん養し、文化を育むなどの多面的な機能も担う。そうしたかけがえのない農業の基盤となる地域を、農家以外も含めた若手で守る活動が3日、県内で初めて川西町高山地区で行われた。地元のJA山形おきたま青年部員3人を含む中里青年会の20〜40代の14人で「草刈り隊」を結成。田植え

川西町に県内初の草刈り隊

が終わった水田地帯を走る町道沿いの約800区画間で下草刈りに汗を流した。地区では、過疎化や高齢化などで農業・農村の多面的機能維持が困難になりつつあり、JAグループ山形の農業所得増大・地域活性化応援プログラムの一つ、地域の若手による「草刈り隊」支援事業を活用した。「草刈り隊」は、国が新農政の地域政策として2014年度から始めた多面的機能支払交付金（日本型直接支払）制度で、共同活動を行う高山地区資源保全隊中里集落班から、畔畔（けいはん）除草など活動の一部委託を受け、組織づくりや資金面で支援を受けた。中里青年会会長の浦田智春さん（41）は「青年会の活動も少なくなっていた。地域や農業のために少しでも役に立てばうれしい」と話す。JA山形おきたま青年部副委員長の井上清人さん（33）は「地域や農業の将来を見据え、活動が農家以外の住民とのつながりを深めるきっかけになれば幸いだ」と語った。「草刈り隊」支援は、JA青年組織の仲間1人以上などが条件。地域資源を守りながら農業所得の増大を支援し、多様な担い手を含め

地域 担い手 サポ・センだより

JAグループ山形

た地域との結び付きを深めるのが狙いだ。南陽市や長る。井市でも、検討の動きがある。



地域と農業を守る決意に燃える川西町高山地区の草刈り隊